

牧師室から(2020.8.31)

玄関前にイタリアンパセリをプランターに植えてみた。みるみる葉っぱが増え、パスタやサラダに乗せて食べながら、その香りに満足し得た気分になっていた。

そのある日、葉っぱの上で動く小さな虫を発見、それがキアゲハ蝶のイモムシであることがわかった。嫌がる鈴木牧師の気持ちを無視して私は育てることにした。どんどん大きくなり、色とりどりになるイモムシがいつのまにか可愛く見え始めた。毎日朝晩覗くのが日課になっていた。割り箸でちょっと触ると緑色の体からオレンジ色の小さな角を立てて威嚇する。絵の具で描いたような色も模様も不思議である。多かったパセリの葉っぱは無残になくなり、その旺盛な食欲は茎も食べ尽くしていた。急いでパセリを買って来て横に置いた。しかし、そこに農薬が付いていたのか、9匹いたイモムシが全部死んでしまった。動かないイモムシの放り出されたような姿を見た私は、自分が殺したような衝撃でその夜なかなか眠れなかった。パセリを見ることさえ辛かったが、ある日小さなイモムシが5匹も現れ、元気よく葉っぱを食べていた。孵化しなかった卵が残っていたらしい。そして水やりで農薬が流されたようで、パセリの葉っぱをもくもく食べながら生き生きとしている。嬉しい！また、私の観察が始まった。この小さな虫を見ながらも、一生懸命に生きようとする生命力を感じる。

しかしある日、小指くらい大きくなり、ムクムク太ったイモムシたちはいつのまにか突然いなくなった。さなぎになるためどこかに旅立ったのだ。その小さな体で3メートル先まで歩くものもいるらしい。居場所を探してさなぎになり、いつかは素敵なアゲハ蝶になって羽を伸ばして飛び回る。そして、時が来ると子孫を残すために場所を探し選んで卵を産む。神様がお造りになった私たちの世界は本当に神秘的に満ちている。

「この世はみな、神の世界、

鳥の音、花の香 主をたたえる。

朝日 夕日 空に映えて

み神のみわざを 語り告げる。」(讚美歌 21-361-2 節)

(鈴木善姫牧師)